

東京日々新聞

九草三口

疑ふ心の情は深き中仙道の深谷より又歌の娼妓は別れて通ひ。
 或る蘭若の妻所へ到て合草し男は死出
 見ると。俱に死んと華を雅ひ出
 妙術りて死を誠と明さんと云ふ奥の手と試て
 情郎のありと。客の勅者となりて護責を妓の手替の
 或る蘭若の妻所へ到て合草し男は死出
 の米内とせん短刀腹に突入れ。周章と
 愕き逃出せ妓と笑て呼止り之れ
 翔江の佃工より互に却色と傳奇
 なる若く過つて魅まふ貴重
 の命を断る至る疑ひ深きも
 野庭にあらばや此話以
 故人の句まをく。

白香や毒分別
 那ら至る之話

轉々成記

蕙齋
 茶樂

神
 具
 屋
 渡
 彫
 米

